

日本医療情報学会関西支部 2024 年度第 1 回講演会・秋の講演会
関西医療情報処理懇談会 (KMI) 第 70 回例会
関西医療情報技師会 第 48 回勉強会
合同講演会

診療録の電子保存が認められて 25 年（四半世紀）が経過する。

これは、平成 11 年 4 月 22 日付の厚生省健康政策局長、医薬安全局長、保険局長の連名による通知「診療録等の電子媒体による保存について」により、診療録、診療諸記録の電子媒体による保存が認められたことに由来している。この通知では、真正性、保存性、見読性の 3 基準を医療機関が満たすと判断した場合は、電子的な保存が許されるとしており、その運用と責任は、それぞれの医療機関に委ねられている。さらに、この通知は、法令に基づくものではなく、あくまでも 3 局長の通知であるため、法的な後ろ支えも乏しい。

一方で、医療機関に保存義務のある診療記録は、様式（紙）を前提としており、電子保存においては様式が足かせとなり、折角の電子データのメリットを活かせないことも発生している。

現在、厚生労働省は、医療 DX に向けてすべての医療機関が電子化されるよう、標準化カルテの設置を進めている。さらに、診療記録の保存期間の延長も議論にあがっている。

今後、標準化カルテ時代を迎え、ほとんどの医療機関が電子カルテを使い、診療録の電子保存を行うためには、現在の様式（紙）を前提とした法令の見直しや電子保存の要件の再設計が必要になるのではないかと。リアルワールドデータ、HL7-FHIR、RPA、生成 AI など、新しい考え方や技術が進む中、これらのデータ、基盤を扱うにあたっての現状のギャップはどこにあり、解決すべき課題は何かを議論する。（以下、敬称略）

テーマ：電子カルテの 3 基準を改めて考える ～標準化カルテ時代に向けて～

日時：2024 年 10 月 12 日（土）13:00～16:45（12:30 開場）

場所：神戸臨床研究情報センター 第 1 研修室（神戸市中央区港島南町 1 丁目 6 番 5 号）

定員：200 名（現地のみ Web 配信はありません）

参加費：無料

認定ポイント：（上級）医療情報技師ポイント:4 ポイント、医用画像情報専門技師ポイント:8 ポイント、医療情報システム監査人（補）:2 ポイント

世話人(順不同)：佐々木啓充（市立豊中病院）、高井康平（キヤノン ITS メディカル株式会社）、菅野 俊（兵庫県立西宮病院）、鈴木 淳（市立東大阪医療センター）、橋本智広（大津赤十字病院）、櫃石秀信（川崎医療福祉大学）、星 雅丈（福知山公立大学）、小谷裕輔（香川大学）

*** プログラム ***

開会挨拶：黒田知宏（日本医療情報学会関西支部会 支部会長） 13：00～13：10

【第1部】講演：司会進行 高井康平（キヤノン ITS メディカル株式会社）

13：10～15：30

0. 趣旨説明と課題提起：佐々木啓充（市立豊中病院）

1. 森 明子（大津赤十字病院医療情報課）

「電子カルテの進化に伴う診療録の現状と課題
～現場視点で考える適切な記録の確保とは～」

2. 中原孝洋（京都医療センター）

「三原則を担保するストレージとバックアップ」

～休憩(10分)～

3. 堀 謙太（兵庫医科大学）

「診療記録の DX？」

4. 芦原貴司（滋賀医科大学）

「医療 DX による標準化を見据えた電子カルテの現状と課題：臨床医の視点を含めて」

～休憩(10分)～

【第2部】総合討論：

15：40～16：40

ファシリテーター：関西医療情報技師会世話人

佐々木啓充（市立豊中病院）、櫃石秀信（川崎医療福祉大学）

閉会挨拶：小枝伸行（関西医療情報処理懇談会 会長）

16：40～16：45

○講演会終了後に、懇親会（18時頃より、三ノ宮近辺）を予定しています。